

第31回BMS定例会総会

エーザイ 羽倉昌志

2003年11月25日

共同研究(終了分)

1. 試験材料の検出感度に及ぼす影響 Mutat. Res., 272 (1992)
2. 前培養条件の検出感度に及ぼす影響 Mutat. Res., 272 (1992)
3. 背景データの解析と管理
4. TA102,TA2638, pKM101導入WP2株などの有用性の検討
 Mutagenesis, 10 (1995), Mutagenesis, 11 (1996)
5. 至適前培養条件の簡易検討法 Mutat. Res., 334 (1995)
6. プレインキュベーション法の試験条件
7. 大腸菌WP3101P ~ 3106P株を用いた突然変異スペクトルの解析に関する
 研究 環境変異原研究, 25 (2003)

共同研究(進行分)

- ニトロアレーン,芳香族アミン等の化合物に高感受性を示すYG株を用いた研究(実験進行中)
- ヒトS9を用いるAmes試験(実験終了し,学会発表を終えた。現在,論文作成中)

BMS研究会の将来の共同研究の方向性

以下の共同研究テーマ案についてBMS会員にアンケート調査を実施し、その結果を基に実施可能なものから順次行っていきたい。

1. Ames試験のさらなる向上を目指し、技術的(手法も含めて)な検討課題を解決していく。
2. Ames試験結果のデータベースを構築し、構造活性相関検索に役立てる。
3. 少量新規化合物を対象とした大量処理型Ames試験法を開発し、企業でのスクリーニングに貢献する。
4. 特定な化合物群に特異的に反応を示す新規試験法の開発
5. ヒトS9あるいはヒト代謝酵素遺伝子を導入した微生物を用いた試験によるヒトでの安全性評価に有効なデータを提供する。
6. 新しい領域の研究(例えば micro array)に取り組む。

これから行いたいこと

1. アンケート調査の実施

- (1) 共同研究の推進のため(研究会の活性化に極めて重要)に会員の皆様が望んでいる共同研究テーマを知りたい。
- (2) BMSに対する要望を知り, 本研究会の存在意義を高める活動を行うため。

これらの目的のため, アンケート調査を実施し, 次回の定例会でその結果を報告したい。その結果をもとに新たな活動, 特に共同研究の発足を支援したい。

2. 過去のBMS共同研究のまとめ

過去のBMS共同研究で誌上発表されていない共同研究を調べ, home pageへの掲載あるいは「環境変異原研究」の資料や短報にできるだけまとめたい。

お願い

BMS研究会の存在意義・方向性が今、問われようとしている。
このためには、

- 会員一人一人のご協力なくしてはBMS研究会の発展はない。
- 共同研究を立ち上げて下さる方、世話人を引き受けてくださる方の出現を切望
- ご意見やご要望は大歓迎！